『第8回栗山川シンポジウム』

～自然豊かな川づくりを考えてみませんか～

私たちが暮らしていくうえで欠くことのできない水。

この水源として様々な所で利用されている栗山川は、サケが回帰する南限の川でもあります。多くの自然を残す栗山川を、安心して暮らせる川、美しい景観を持つ川、多くの生物が住める川を目指した改修工事が進んでいます。変わりつつある栗山川を育てていくため、どう関わり何をすべきか考える機会として「栗山川シンポジウム」を開催します。

今回は、「大事に育てよう、自然豊かな栗山川」がテーマです。

【と　き】　3月14日(日)午後1時30分から
【ところ】　横芝町文化会館
【内　容】　講演：県立中央博物館客員研究員　大場達之氏、
栗山川改修事業説明、栗山川サケ放流事業報告
アトラクション：横芝中学校吹奏楽部、上堺保育所園児遊戯

問い合わせ先：建設課　☎82－8827

普及センターだより

◇ジャンボタニシの対策

近年、海岸地帯の水田、用排水路を中心にジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の発生が目立っています。

生育初期の稲を加害するなど水田で被害が生じています。

いつどこから来たのか？

南米原産で、80年代前半に食用のために日本に持ち込まれました。しかし、野生化した貝が、稲を加害し始めたため、84年に有害動物の指定を受け、輸入が禁止されました。沖縄県で、この貝から人体にも寄生する広東住血線虫が発見されたこともあり、国内での養殖業は完全にすたれました。今いる貝はその当時に野生化したものです。

防除対策は組み合わせて行う

耕種的防除と薬剤防除を組み合わせて貝の数を減らし、実際の被害は、水管理で防ぐのが良いでしょう。

①浅水管理で食害防止

貝が水稲に被害を及ぼすのは田植え後、約3週間までで、その間、水深をできるだけ浅く保ちます。水深1cm以下が理想ですが、4cm以下に保つと実害が低くなります。

ほ場の均平がポイントです。

②水路からの貝の侵入防止

砂や枯れ草がたまっているような水路、または貝の多く生息するため池や河川から直接水を引いている水路では、水口から貝の侵入が多い傾向があります。水口に、1～2cmメッシュの金網や5～9mm目合いの網袋を設置すると被害軽減に効果があります。

③耕うんによる貝破砕

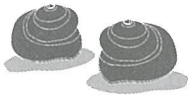
貝は土中に潜って越冬しますが、その深さは6cm未満です。耕うん深度は浅く、できるだけ土の硬い時期（収穫直後や冬季）に通常の1／2以下の作業速度で、一気に耕耘すると殺貝効果が高くなります。

④成貝・卵塊を地域で捕殺

卵塊は、産卵後5～7日以内に水中に落すと死滅します。用排水路も含め、地域で行うと効果が高くなります。

⑤薬剤による防除

キタジンP粒剤を10a当たり5kg散布すると殺貝効果があります。



山武農業改良普及センター
☎0475－54－0227